

仙台塩釜港長期構想委員会

第2回委員会 説明資料



令和7年11月28日

宮城県土木部港湾課

第2回委員会 次第

- 1 第2回委員会の進め方について
- 2 第1回委員会・現地視察・第2回幹事会の結果(報告)
- 3 仙台塩釜港の課題・論点整理
- 4 長期構想の基本戦略(案)について
- 5 長期構想の骨子(案)について
- 6 貨物量の将来需要推計
- 7 その他(次回開催予定、連絡事項等)

はじめに

(はじめに)長期構想の進捗状況

明日の仙台塩釜港
を考える懇談会

R6年3月とりまとめ

第1回 委員会・幹事会
(合同開催)

R7年5月23日

現地視察
(R7年7月28、29日)

第2回 幹事会
(R7年11月5日)

第2回 委員会
(R7年11月28日)

第3回～
委員会(幹事会)

「仙台塩釜港の将来像・目指すべき方向性」

将来像：宮城・東北の経済をけん引し、にぎわいと活気にあふれ、自然と共生する強靱な仙台塩釜港

仙台塩釜港の概要

仙台塩釜港の現状

懇談会の振返り

港湾を取り巻く環境変化

上位・関連計画

仙台塩釜港の課題

物流

防災・施設維持

環境

観光・交流

現地視察（4港区の現状・役割を確認、今後求められる課題等について確認）

今回

仙台塩釜港長期構想策定方針
(20～30年後の目指す姿・役割、基本戦略)



・これまで得られた課題の整理
・長期構想の基本戦略(案)・骨子(案)

仙台塩釜港長期構想（中間案）

仙台塩釜港のあるべき姿・役割、基本戦略、主要施策、空間利用・ロードマップ

パブリックコメント

仙台塩釜港長期構想（最終案）

長期構想の策定・公表

1 第2回委員会の進め方について

1. 第2回委員会の進め方について

第2回委員会でご議論いただきたい内容

1 これまでの議論や現地視察を踏まえた課題・論点の整理について

- 明日の仙台塩釜港を考える懇談会から5月の本委員会、7月の現地視察を経て、これまでに多数の課題・論点が抽出された。
- これらの課題・論点を4つの視点・12の課題に沿って港区毎にとりまとめ、2でご議論いただく長期構想の基本戦略(案)に向けて総括的な整理を実施したもの。
➡ その他、考慮すべき事項や記載漏れの有無等について、ご意見を伺いたい。

2 長期構想の基本戦略(案)について

- 1の課題を踏まえた長期構想の基本戦略として、全体コンセプトと4つの戦略を提案する。
➡ 基本戦略の妥当性、課題を踏まえた効果的な戦略か等についてご意見を伺いたい。

3 長期構想の骨子(案)について

- 本委員会の成果をとりまとめるに当たり、長期構想の目次となる骨子(案)を提案する。
➡ 一般県民にも分りやすい構成となっているか等についてご意見を伺いたい。

4 貨物量の将来需要推計(経済指標に基づくマクロ推計)

- 社会経済フレーム(貨物量推計)の考え方、貨物量の推計状況を報告する。
➡ 昨今の物流・経済動向や、経済学的な視点から妥当性等についてご意見を伺いたい。

今回の議論を踏まえ、第3回委員会において、長期構想(中間案)を提示する予定。

2 第1回委員会・現地視察・ 第2回幹事会の結果（報告）

2-1.第1回長期構想委員会の結果

1 第1回委員会(幹事会合同)の開催概要

(1) 日 時

令和7年5月23日(金) 午前10時から12時まで

(2) 場 所

夢メッセみやぎ 本館会議棟 大ホールA・B
(仙台市宮城野区港3丁目1-7)

(3) 出席者

学識経験者、経済団体、港湾関係者、国・関係市町
(委員 全33名中30名参加
幹事 全23名中18名参加) 対面・web

(4) 内容

- 「仙台塩釜港の将来像と目指すべき方向性」の概要
- 仙台塩釜港の現状・課題 など



2 各分野における主な意見

【物流】

- ・ (仙台)東北唯一の中核的国際拠点港湾として、コンテナターミナルの競争力向上、機能強化が必要である。
- ・ (仙台)RORO船大型化や2024年問題に伴うモーダルシフトによるバース・ヤードの不足が懸念される。
- ・ (塩釜)現状でも水深不足で船舶が減載調整している状況のため、航路・岸壁の水深確保が必要である。
- ・ (石巻)船舶の大型化への対応や港内静穏度の確保に向けた機能強化に加え、港区間の連携も検討すべき。

【防災】

- ・ 被災港湾と、広域的な防災支援港湾の2パターンを想定した災害対応力に優れた港づくりが必要である。
- ・ 港のブランディングとしても重要な要素となりうるBCPを普段から適切に整備しておくべきである。

【施設整備・維持】

- ・ 港湾施設の老朽化対策の計画的な実施に加え、防舷材や係船柱など利用状況を踏まえた更新を図るべきである。
- ・ (塩釜)海上保安拠点として、巡視船の基地機能を適切に確保すべきである。

【観光・交流】

- ・ クルーズ専用ターミナルなど、ハード面でのクルーズ船受入環境整備を期待したい。
- ・ インバウンド需要を見据えて周遊ルートの整備や交通ネットワークの整備促進を図るべきである。
- ・ マリンレジャーの適正利用、ウォーターフロントとしての空間・修景施設整備、利活用促進を図って欲しい。

【その他】

- ・ 若者が働きたくなるような発信や仕組みを作るべきである。
- ・ グローバルスタンダードの観点を根底に持つべきである。

2-2. 現地視察の結果

1 現地視察の開催概要

(1) 目的

仙台塩釜港の現状への御理解を深めていただくとともに、施設整備や利用状況を踏まえた課題・論点の抽出を図るもの。

(2) 出席者（視察は委員を対象）

- 7月28日（月） 委員8名（随行含む合計25名）
- 7月29日（火） 委員12名（随行含む合計32名）

(3) 視察概略工程

- 7月28日（月） 10時から16時 石巻・松島コース

＜ 石巻港区 ＞ （バス視察、海上視察：直轄業務艇に乗船）
釜地区、雲雀野地区、石巻埠頭サイロ屋上、内港地区
＜ 松島港区 ＞ （徒歩）
観光栈橋、五大堂ほか

- 7月29日（火） 10時から16時 塩釜・仙台コース

＜ 塩釜港区 ＞ （バス視察）※海上視察は海象不良により中止
北浜緑地、中心頭、貞山埠頭、東宮地区、マリゲート展望台
＜ 仙台港区 ＞ （バス視察）
向洋地区、高砂コンテナターミナル、ポートラジオ
蒲生北部地区、中野地区、中央公園（NX仙台港パーク）

(4) 視察を踏まえた意見の収集について

今回参加されなかった方も含め、ご意見提出カードにより視察等を踏まえた意見を収集し、7者より35件の意見提出があった。（詳細は、別添参考資料を参照）

2 主な意見・感想

〔仙台〕

- 岸壁やふ頭用地だけでなく臨港交通も含め港全体が混雑しており、物理的な限界に迫っていることを改めて認識。
- コンテナターミナルの出入りも混んでおり、効率化を図る必要がある。

〔塩釜〕

- 仙台港区の補完として、水深、航路幅、岸壁を確保し、浚渫土砂を適正に処分するための埋立地も含めた検討を。
- 小型船が適正に収容されていると感じた。

〔石巻〕

- 他の港区に比べて空間的な余裕があり、さらなる拡大・発展の可能性が感じられる。
- 船舶大型化へ対応するため、航路・水深の維持確保が重要だ。

〔松島〕

- 猛暑対策など観光客が快適に利用できる環境整備が必要。
- 観光船の安全な運航のため、マリンレジャーのルール検討を。



海上視察の状況
（石巻港区・国交省業務艇）



視察講評の様子
（仙台港区・NX仙台港パークにて） 8

2-3.第2回幹事会の結果

1 第2回幹事会の開催概要

(1) 日 時

令和7年11月5日(水) 午後2時から午後4時まで

(2) 場 所

夢メッセみやぎ 西館1階 会議室(大)
(仙台市宮城野区港3丁目1-7)

(3) 出席者

国・県機関・関係市町
(幹事 全23名中22名参加) 対面・web

(4) 内容

- 仙台塩釜港の課題整理
- 仙台塩釜港長期構想の基本戦略(案)・骨子(案)など



2 各分野における主な意見

【物流】

- ・ (仙台)ハードというよりはソフト的な取組としての利用の効率化、高度化に主眼を置くことも必要である。

【防災】

- ・ (石巻)半島防災が注目され「命のみなとネットワーク」などを活用した海上防災拠点機能強化を推進していくべき。

【施設整備・維持】

- ・ (塩釜)背後道路も含めた一体的な埠頭再編が必要。
- ・ (塩釜)塩釜港区において海上保安基地機能を確保。
- ・ (石巻)長期構想だけではなく、現状の課題を踏まえた港の安全を確保する必要がある。

【環境】

- ・ ブルーカーボンや藻場造成など環境に配慮の戦略も必要。
- ・ (石巻)空間的余裕があり、貨物取扱状況等を踏まえた次世代エネルギー受入拠点として活用できる可能性がある。

【観光・交流】

- ・ (松島)各港区と連携した周遊ルートの構築だけではなく、港自体の観光資源の発掘による地域活性化が必要。
- ・ (松島)インバウンド需要増加等も踏まえ、観光客の利便性確保のため遊覧船棧橋構造の見直しを検討してほしい。
- ・ (石巻)安全性及び一定の水深が確保されている太曲地区へのプレジャーボート係留施設の検討を求める。
- ・ 海水浴や景観などの素晴らしい観光資源を踏まえた周遊ルートの検討をお願いしたい。

【その他】

- ・ 成長戦略など国政策を踏まえた東北全体の成長をけん引していくというような表現の追加を検討してほしい。
- ・ 課題の積み上げにとどまらず、バックカスティング的に将来像を描くところから逆算しながら検討してほしい。

3 仙台塩釜港の課題・論点整理

3. 仙台塩釜港の課題・論点整理(1)

第1回委員会資料(一部追記)

明日の仙台塩釜港を考える懇談会で整理した課題

仙台塩釜港が受け止めるべき

12の課題

物流	課題①	コンテナターミナルの取扱機能の効率化・拡充に向けた取組
	課題②	ユニットロード貨物・バルク貨物取扱機能の効率化・拡充に向けた取組
	課題③	労働力不足に対応する業務効率化・生産性向上への取組
防災・維持	課題④	国際戦略港湾の支援も視野に入れた広域的な防災港湾の体制強化
	課題⑤	海面処分用地の確保検討
	課題⑥	港湾施設の老朽化進行への対応
	課題⑦	災害時における船舶と海路(輸送拠点・避難など)の活用
環境	課題⑧	温室効果ガス削減に向けたカーボンニュートラルポートへの取組
	課題⑨	海域環境の保全
観光・交流	課題⑩	クルーズ船受入環境とインバウンドの促進
	課題⑪	マリレジャーの適正な推進
	課題⑫	人流増加に向けた目的地づくりの推進

更なる社会情勢の変化

- 日本社会全体を取り巻く課題
- 港湾を取り巻く社会変化による課題
- 港湾政策変更による課題
- 最近の社会情勢変化による課題
(国際経済の変化、地政学的リスクの影響) など



各港区における課題

- 港湾内の使い勝手や利便性の向上
- 背後のまちづくりや産業・経済との関わり
(地域の港湾への要請・期待、政策面での連携)
- 東北圏、全国との広域的な連携のあり方
(広域的な産業、道路・鉄道網との関係性) など

※**現地視察**などを踏まえ、各委員から御意見をいただきながら整理

本委員会において議論・検討

仙台塩釜港の長期構想における課題・論点として整理

- 視点1

視点2

視点3

視点4

長期構想の基本戦略

- 全体戦略(コンセプト)
- 視点毎の個別戦略

次回： 各視点(個別戦略)における重要な論点 ➡ 主要施策

3-1. 仙台塩釜港全体の課題(総論①)

➤ 課題・論点の全体を総括し、長期構想の全体戦略(コンセプト)へつなげる

◆ 港湾の果たすべき使命・ニーズが多様化

- 加速化するモーダルシフトや労働力不足、大規模災害への対応、脱炭素化の推進、クルーズ振興など、港湾に求められる役割は、従来の港湾機能(物流・人流)を超えて多様化
- ひとつの港区の機能を充実・強化するのみで対処するには限界があることから、総合的に連携・補完して取り組むことが必要

◆ 限られた港湾空間の有効利用・最適化

- 既に岸壁や背後ヤードの不足、貨物の過密化・混在利用による非効率な荷役作業といった問題が顕在化する中、拡張の余地が少ないことなどから対応が困難
- ヤード点在による同一貨物の横持ち移動など非効率な土地利用や利用頻度が比較的低い施設など各港区の実情を踏まえ、**港区間で適切に連携・補完し合えるよう、集約化も含めた全体の機能再編・再構築が必要**

◆ 持続可能で安全・安心、強靱な港湾の形成

- 大規模災害時にも必要な港湾機能が発揮されるよう、施設の適切な維持管理のため、**長寿命化対策や機能が低下した施設の廃止・集約など維持・更新コストの縮減・平準化に全体で取り組む必要**
- 浚渫土の適正な処分場確保については、各港区の土地利用への需要も踏まえながら**総合的に対応する必要**
- 東日本大震災や能登半島地震の教訓も踏まえ、大規模災害時における離半島も含めた広域海上防災機能の強化に向けては、**各港区の機能を結集した総合的な連携体制の構築が必要**。



あらゆる港湾ニーズに対して、4港区が機能を連携・補完しながら、総合的に対応していく必要



三港の機能を一体化した「統合」港湾から、各港区が機能を補完し合う「総合」港湾へ

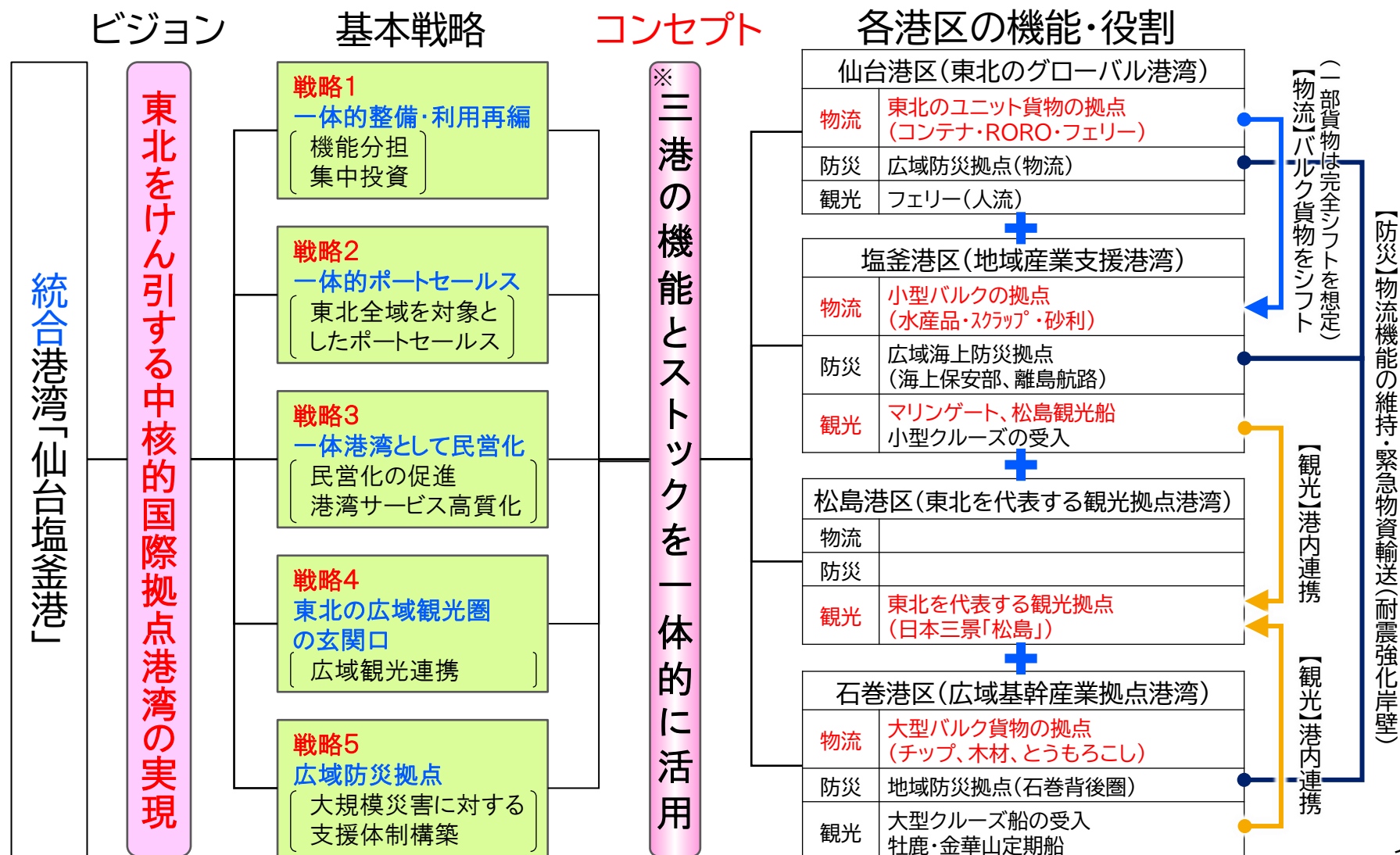
↓「港區別最適」から「全体最適」への質的変化

3-2. 仙台塩釜港全体の課題(総論②)

これまでの考え方
【現在の長期構想】

各港区が分担する機能・役割を明確化
(港区别の集中投資・最適化、機能特化によるニーズ対応)

【H24仙台湾統合港湾長期構想】



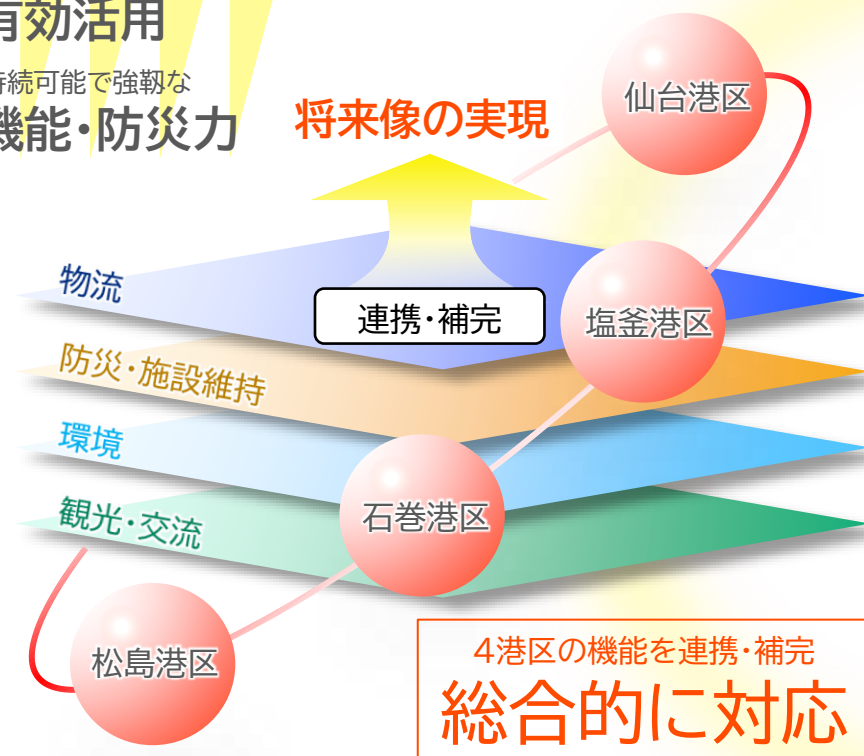
※H24.11に従来の仙台塩釜港(仙台・塩釜)、石巻港、松島港の3港が統合し、4港区(仙台、塩釜、石巻、松島)からなる仙台塩釜港となったもの。

3-3. 仙台塩釜港全体の課題(総論③)

これからの考え方(イメージ)
【**新たな**長期構想のコンセプト】

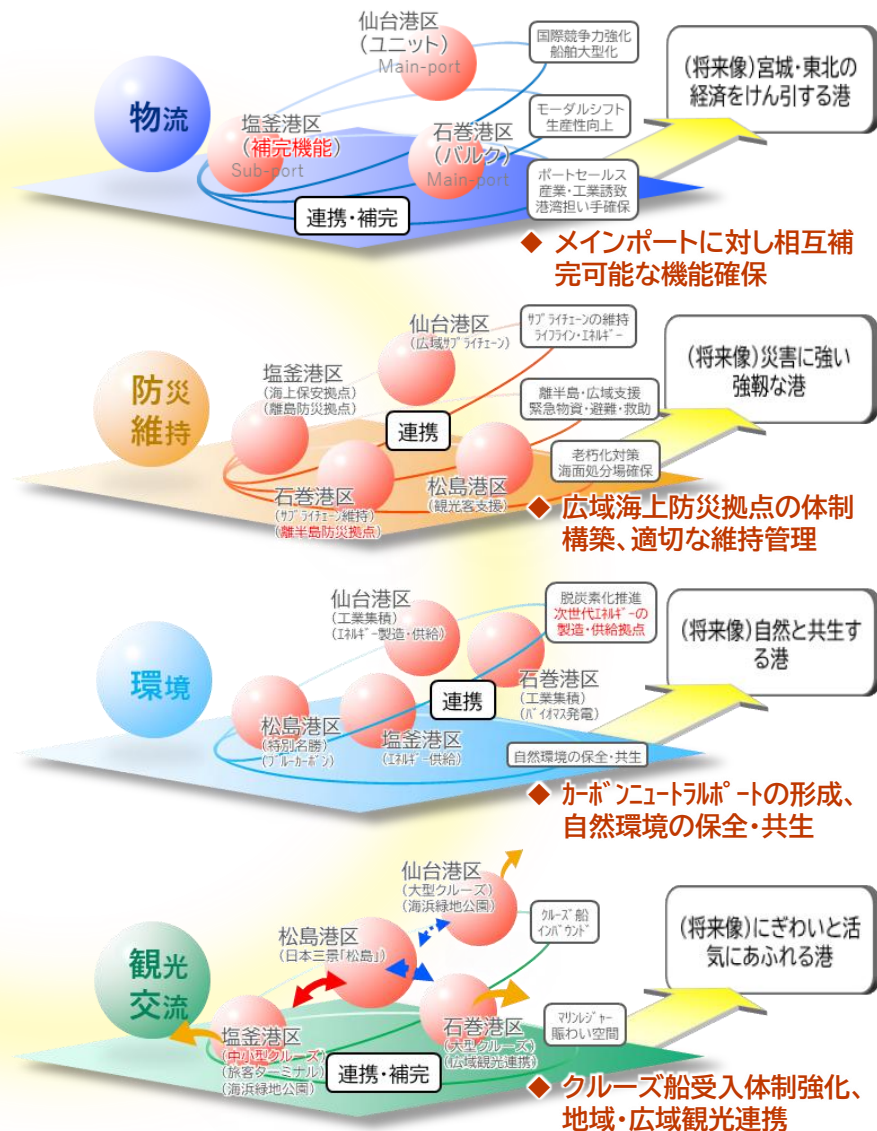
- 港湾ニーズの
多様化
- 限られた空間・ストックの
有効活用
- 持続可能で強靱な
機能・防災力

将来像の実現



【総合港湾のコンセプトイメージ】

港区別の強みを生かしつつ相互に**連携・補完**
(全体最適化・スケールメリット増大による対応力の向上)



【各視点におけるコンセプトイメージ】

3-4.各視点における課題・論点整理

4つの視点における課題・論点を総括し、それぞれの基本戦略(柱)に繋げる

物流

- ◆ 先行き不透明な国際社会情勢や国内におけるモダルシフトの進展、労働力不足など近年の港湾を取り巻く環境変化に伴い、**港湾機能の不足や取扱貨物量の減少などの影響が一部で顕在化**している。
- ◆ 船舶の大型化等に対応した港湾機能の強化はもとより、港区間の適切な連携やデジタル技術の活用も含めた港湾(ターミナル)利用の最適化・効率化・利便性の向上など、**ソフト・ハードの両面での質の高い港湾サービスの提供**が求められている。
- ◆ こうした港湾サービスの向上に加え、京浜港や東北各地と繋がる広域物流拠点としての強みを生かしたポートセールスを戦略的に推進し、**更なる貨物需要の創出を図る**ほか、港湾の魅力向上により**将来の担い手確保にも貢献**することが期待されている。

防災・施設維持

- ◆ 東日本大震災や能登半島地震の教訓を踏まえ、大規模災害発生時における**港湾機能の持続性確保のみならず、離半島や東北・首都圏港湾等への広域的支援**を見据えた、**災害に強く強靱な広域海上防災拠点港湾**としての機能強化や体制構築が必要である。
- ◆ 機能面では、**耐震強化岸壁の整備**に加え、老朽化対策や水深確保など**維持管理の計画的な実施が重要**であり、**港区間の機能再編**を見据えた既存ストックの更新・再構築や各港区における海面処分場の確保なども含めて、総合的に対応する必要がある。
- ◆ 他港の被災や地震以外の災害など様々な事象を捉え、物流・緊急物資等の両面から広域支援に対応できるよう、**港湾BCPの充実強化**を図るとともに、**平時から適切に整備・運用**することで、港湾の魅力、信頼性の向上にも繋がることを期待されている。

環境

- ◆ 2050年の脱炭素社会実現に貢献する国際拠点港湾として、**カーボンニュートラルポート形成の計画的な推進**が求められており、港湾の事業活動における**脱・低炭素化、次世代エネルギーの供給需要等**に各港区が連携して対応する必要がある。
- ◆ 海洋環境の変動に対応し、**地域の独自景観や貴重な生態系**を資源と捉え、**保全と共生に取り組む**ことが求められている。

観光・交流

- ◆ 地域及び背後圏を含む**広域観光振興に貢献するゲートウェイ**として、**クルーズ・インバウンドの受入れ機能・環境の充実化**に加え、日本三景松島を含む港区間の連携や広域交通網を生かした**周遊ルートの構築、円滑な二次交通の確保**などが求められている。
- ◆ バイエリアにおける人流増加や地域経済の活性化を図るため、来訪客や地域にも親しまれるウォーターフロントの形成、海水浴やマリッジ、自然景観や文化・歴史的施設などを生かした**各港区・地域ならではの魅力ある目的地づくり**に取り組む必要がある。

3-5. 港区別の論点整理 仙台港区

➤ 各港区における主要な論点を抽出し、基本戦略における主要施策の検討材料とする。

コンテナ・ユニットロードの物流機能強化・効率化、バース・ヤード不足への対応、大型クルーズ需要への対応



※課題番号は「明日の仙台塩釜港を考える懇談会」で整理した12の課題に対応している。

3-5. 港区別の論点整理

塩釜港区

各港区における主要な論点を抽出し、基本戦略における主要施策の検討材料とする。

仙台港区の補完機能、海上保安基地機能の確保、中・小型クルーズ対応、港奥部の賑わい空間

課題⑧

- 官民連携による港湾脱炭素化推進計画の着実な推進
- 次世代エネルギーの受入・供給の動向を踏まえた環境整備

中の島地区

港地区

本塩釜駅

課題⑫

- 港奥部における賑わい空間の創出

マリゲート塩釜

一本松地区

港貞山地区

貞山地区

課題②

- 仙台港区の補完的な役割を担うための埠頭機能の再編と強化(バース・ヤード・計画水深の確保)

東宮地区

課題⑥

- 老朽化施設の更新(航路・泊地の水深維持含む)

課題④

課題⑦

- 大規模災害時の離島支援や他港区のバックアップ等に対応した施設整備
- 海上保安拠点としての巡視船基地機能の確保

課題⑩

- 旅客ターミナルや松島観光船等の優位性を生かした中・小型クルーズ船の誘致

課題⑪

- 小型船の収用状況等を踏まえた船だまり計画の見直し

<現地視察を踏まえた意見>



商店街や飲食店が近くにあるため、船員の買い物や息抜き場として活用できないか。



航路の幅や水深が確保できれば、物流、観光面でも他港区の補完も含め十分対応できる余地がある。

3-5.港区別の論点整理

石巻港区

3. 仙台塩釜港の課題・論点整理

各港区における主要な論点を抽出し、基本戦略における主要施策の検討材料とする。

バルク船舶大型化・大型クルーズ需要への対応、離半島を含む海上防災拠点、広域交通網を生かした貨物需要の創出



3-5. 港区別の論点整理 松島港区

各港区における主要な論点を抽出し、基本戦略における主要施策の検討材料とする。

インバウンド・クルーズ誘客に向けた各港区、背後圏との連携、快適な観光サービスの提供、特別名勝の適切な保全

課題⑥

- 老朽化施設の更新
(計画的な維持浚渫による
航路・泊地水深の確保)

課題⑧

- 藻場造成などブルーカーボンの導入

課題⑨

- 特別名勝松島における独自
景観の保全

課題⑩

- 各港区、関係機関の連携による周遊ルート構築
- 地元観光振興との連携によるインバウンドの増大に対応した受入体制の構築・快適な観光サービスの提供

課題⑪

- 小型船の在港隻数や収容状況を踏まえた船だまり計画の見直し

課題⑫

- バリアフリーに対応した観光
棧橋の拡充



<現地視察を踏まえた意見>



近年増加する水上バイクなどのマリンスポーツについて、安全運行と景観を確保するため、ルールづくりなどが必要である。



干潮時にも安全に航行できるよう、継続的な航路・泊地の水深確保をお願いしたい。

4 長期構想の基本戦略（案）について

4-1. 将来像実現に向けた基本戦略(案)

新たな長期構想の基本戦略(案)

全体コンセプト

あらゆるニーズに応える「総合港湾」として機能再編・再構築

4港区が持つそれぞれの強みを最大限に生かしながら、港区毎の機能強化に留まらず、ハード・ソフトの両面において連携・補完し合えるよう機能の再編と再構築を図ることで、総合港湾として最適で最高な港湾サービスを提供し、多様化する港湾ニーズへの的確に対応していく。

4つの戦略

戦略1(物流戦略)

宮城・東北のサプライチェーンを支える最高の港湾物流サービスを提供

戦略2(防災・施設維持戦略)

BCPが充実した、安全・安心で強靱な広域防災拠点を構築

戦略3(環境戦略)

自然環境と共生し、脱炭素社会の実現をけん引するカーボンニュートラルポートを形成

戦略4(観光・交流戦略)

地域の賑わいを創出する東北の広域観光ゲートウェイを形成

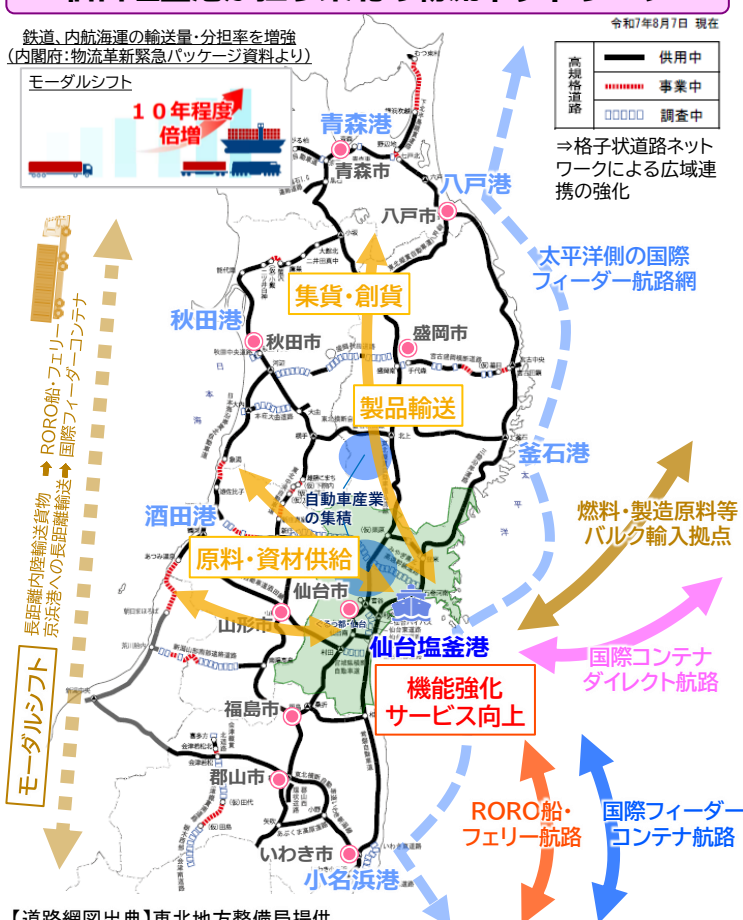
4-2. 各基本戦略(案)の要点 ①

戦略1(物流戦略)

宮城・東北のサプライチェーンを支える最高の港湾物流サービスの提供

- モーダルシフト進展による港湾利用の増大や将来の労働力不足等を見据え、各港区の機能強化のみならず最適な連携・補完体制を構築するとともに、デジタル技術を活用した省力化や効率化、利便性の向上をソフト・ハードの両面から追求することで、東北の国際・国内物流拠点として地域経済の成長をけん引する最高の港湾サービスの提供を目指す。
- これら仙台塩釜港の強み・魅力を生かし、港湾取扱貨物の集荷・創貨の促進、定期航路やクルーズ、工業誘致など、東北圏域と国内外の寄港地・企業から選ばれる戦略的ポートセールスを展開するとともに、港湾分野の担い手確保・育成にも貢献していく。

仙台塩釜港が担う東北の物流ネットワーク



モーダルシフト 国際情勢 労働力不足

取扱貨物量への影響や 港湾機能の不足等の懸念

コンテナ RORO・フェリー貨物
完成自動車 バルク エネルギー

東北のサプライチェーンを支える国際・国内物流拠点

デジタル化・AI 機能再編再構築

(ソフト) 利便性の向上
省力化・効率化

(ハード) 拡張・機能強化
港区間連携補完

戦略的ポートセールス
魅力の向上・発信

社会や利用者の要請に応える
最適な機能と利用を追求
担い手確保

東北の国際・国内物流拠点として
最高の港湾サービスの提供

<掲載する主要施策の例>

コンテナ

東北のグローバルゲートウェイ実現に向けたコンテナ物流強化



- ◆ AIターミナルの実現
- ◆ コールドチェーン強化
- ◆ 需要に応じた拡張・再編 など

ユニットロード

東北太平洋側のユニットロード拠点機能強化



- ◆ 岸壁・ヤード間移動の改善
- ◆ 各港区を含めた機能再編・補完体制の構築 など

バルク

立地企業の動向や新たな産業誘致等を見据えたバルク機能強化



- ◆ 船舶大型化対応・静穏度確保
- ◆ 脱・低炭素燃料の受入れ機能強化 など

BCPが充実した、安全・安心で強靱な広域防災拠点を構築

- 震災の教訓を踏まえ、大規模災害発生時のサプライチェーン維持や海上防災支援に資する港湾機能の持続性を確保するとともに、離半島や他圏域（日本海側・首都圏）への広域支援も含めたBCPの充実強化により、災害に強く強靱な広域防災拠点港湾を目指す。
- 耐震岸壁等の機能強化に加え、老朽化対策や水深確保などの維持管理を計画的に実施するため、各港区の既存ストックの更新（バージョンアップ）や再構築（リストラクチャリング）、海面処分場の確保も含めた総合的な対応により、安全・安心な港湾を目指す。

能登半島地震の教訓

東日本大震災の教訓

散乱・流出するコンテナ

航路啓開
コンテナの引き上げ

(ソフト)

- 陸海の緊急輸送ネットワーク
- 離半島を含めた海上防災支援体制
- 圏域を超えた物流機能の広域支援体制
- BCPの充実、適切な訓練の実施

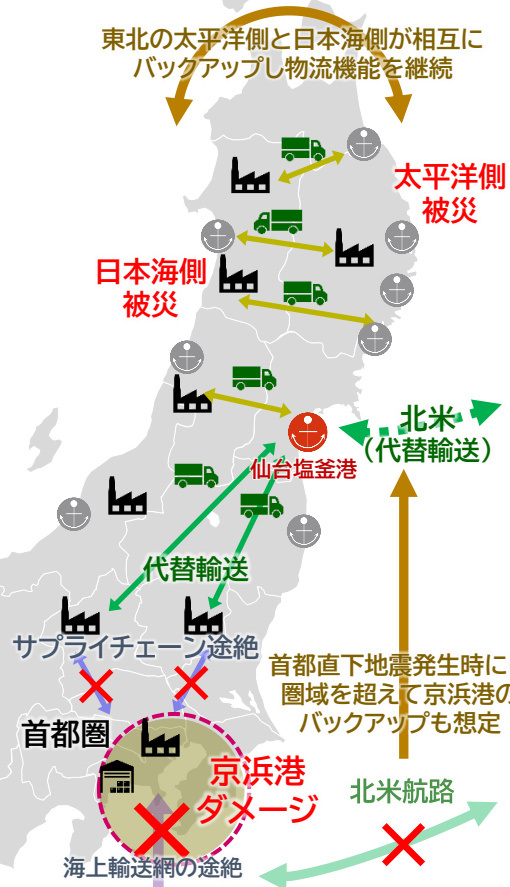
(ハ)

- 耐震化、広域支援に必要な機能強化
- 予防保全による適切な維持管理・更新
- 気候変動への対応、防潮機能の確保

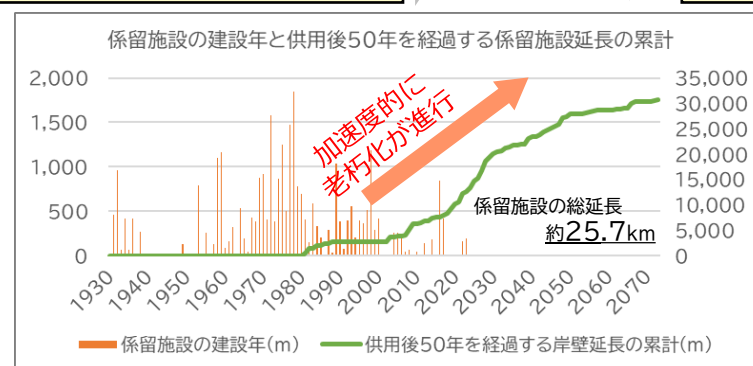
**サプライチェーン
の維持**
**迅速な緊急物資
輸送、避難・救助**

適切な機能維持 と早期の回復

災害に強く強靱な
広域防災拠点港湾



広域港湾BCPガイドライン(国土交通省港湾局)を基に作成



宮城県港湾施設台帳を基に作成

＜掲載する主要施策の例＞

港灣機能の持続性確保・強化

- ・再編・再構築を踏まえた計画的な維持管理
- ・広域支援に対応した増深、延伸、耐震化等の機能強化



- ◆ 耐震強化岸壁の整備
- ◆ 老朽化対策、維持浚渫
- ◆ 海面処分場の整備

港灣BCP

- ・港区間連携や離半島支援を考慮した港湾BCPの見直し
 - ・東北広域港湾BCPの充実、圏域を超えた広域港湾BCPの策定
 - ・平時からの適切な訓練・体制確保
- 2

(左写真)塩釜港湾・空港整備事務所HPより

4-2. 各基本戦略(案)の要点 ③

戦略3(環境戦略)

自然環境と共生し、脱炭素社会の実現をけん引するカーボンニュートラルポートを形成

- 2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて、工業やエネルギー産業が集積する仙台塩釜港において、水素等の次世代エネルギーの受入・供給も見据えた官民連携による港湾脱炭素化の取組を計画的に進める。
- 干潟や日本三景の独自景観を貴重な資源と捉えた自然環境の保全・共生を図り、ブルーカーボンの導入も含めた取組を推進する。

仙台塩釜港港湾脱炭素化推進計画の概要

(1)計画期間 **2050年まで**

(2)計画における温室効果ガス排出量の削減目標

2013年度(基準年) ⇒ 329.9万トン

2019年度(現 状) ⇒ 321.9万トン

2030年度(短 期) ⇒ 165.0万トン(50%削減)

2040年度(中 期) ⇒ 82.5万トン(75%削減)

2050年 (長 期) ⇒ 実質ゼロの実現

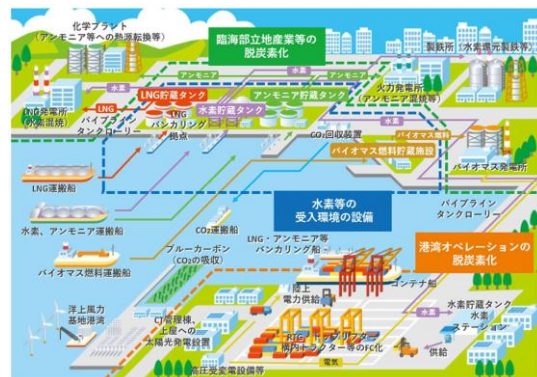
(3)取組方針(官民連携による脱炭素化の推進)

① 温室効果ガス削減・吸収に関する取組

産業活動(工場等)や港湾物流(荷役・輸送)における設備・機械等の電化や水素等の次世代エネルギー転換の取組を推進

② 港湾・臨海部の脱炭素化に貢献する取組

製油・発電等のエネルギー製造過程における低・脱炭素化や次世代エネルギー供給拠点の検討、施設整備等の取組を推進



◀カーボンニュートラルポートのイメージ(国土交通省港湾局HPより)

工業やエネルギー産業が集積する仙台塩釜港

- ・東北を代表する物 仙台区流拠点
- ・火力発電所や製油所等が立地するエネルギー拠点

CO2推計排出量(2013基準)
約195万トン/全体の59%

- ・油槽所が集積するエネルギー供給拠点

CO2推計排出量(2013基準)
約4万トン/全体の1%

各港区が連携

- 石巻港区・紙・パルプ、木材関連、飼肥料など製造業が集積する工業港

CO2推計排出量(2013基準)
約131万トン/全体の40%

- 国の2050年カーボンニュートラル宣言
- 第7次エネルギー基本計画(2025)
- グリーン回廊など国際協力枠組み
- 貨物の変化や燃料・電源需要への対応

国際拠点港湾として社会要請や事業者の需要に適切に対応

脱炭素化社会の実現をけん引

国際競争力の確保

独自景観や自然環境・生態系

特別名勝松島

蒲生干潟

気候変動や港湾の開発等の影響

CO2吸収源

ブルーカーボン・生態系

塩釜湾・空港整備事務所HPより

港湾機能と共生できるよう適切に配慮

貴重な資源として保全・共生

<掲載する主要施策の例>

脱炭素社会の実現

・地域の脱炭素化をけん引するカーボンニュートラルポートの形成の取組

CNP認証ロゴ(国交省港湾局)



インバート制御方式のGC3号機(仙台区)



- ◆ 船舶等への電源や低・脱炭素燃料の供給
- ◆ 水素等次世代エネルギー受給への対応
- ◆ 立地企業の取組支援

自然環境の保全・共生

- ・自然環境や生態系に配慮し、景観と調和した水辺空間の形成
- ・港湾開発等の環境影響の適切な評価と対策の実施

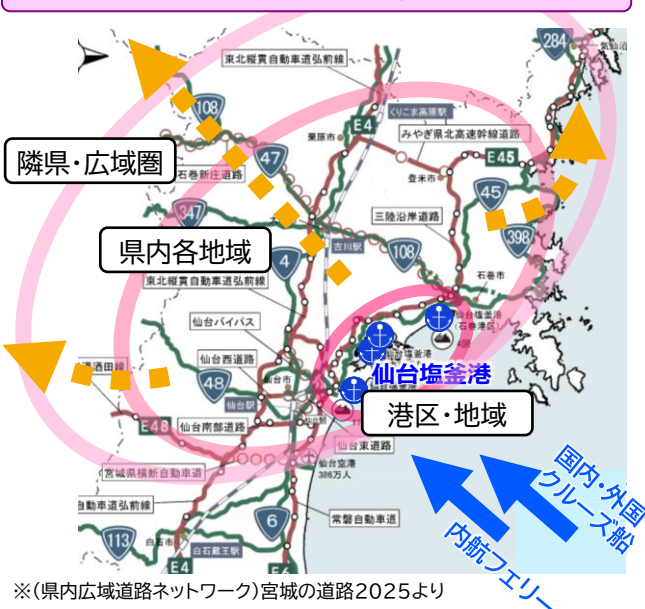
4-2. 各基本戦略(案)の要点 ④

戦略4(観光・交流戦略)

地域の賑わいを創出する東北の広域観光ゲートウェイを形成

- インバウンドの更なる増加を見据え、クルーズ船寄港や松島観光等の需要に各港区が連携して対応するとともに、円滑な二次交通の確保、広域交通網を生かした周遊ルート構築などにより、地域、背後圏を含む広域観光振興に貢献するゲートウェイ港湾を目指す。
- 賑わい拠点となるウォーターフロントの形成をはじめ、マリンレジャーや自然景観、文化・歴史的施設などを生かした各港区・地域ならではの魅力ある目的地づくりを推進することにより、人流の増加や地域経済の活性化に貢献していく。

地域、広域観光をつなぐ海の玄関口



インバウンドの更なる増加(地方誘客の重要性↑)

外国クルーズ船寄港需要の増加



港区・地域、広域観光資源の活用



クルーズ船受入機能や環境の不足

二次交通の不足
(量・手段)

中・小型クルーズ船寄港需要の増

貴重な体験を求める観光需要の増加

観光消費拡大リピーター確保

地域住民と来訪者の交流活性化

地域と広域をつなぐ広域交通網との連携

港区間の補完・連携によるクルーズ船の受入対応力強化

観光客の快適で円滑な移動の確保

陸上・海上の交通連携による周遊ルート構築

地域ならではの魅力ある目的地づくり

インバウンドの増加や地域経済の活性化に貢献

地域の賑わいにも繋がる東北の広域観光ゲートウェイ

<掲載する主要施策の例>

東北の広域観光ゲートウェイを形成

- ・各港区の連携、補完によるクルーズ船、インバウンド受入体制の強化
- ・寄港地から地域間、広域の幅広い周遊を提案できる円滑な二次交通の連携・確保

↓二次交通活用検証事業(東松島市)



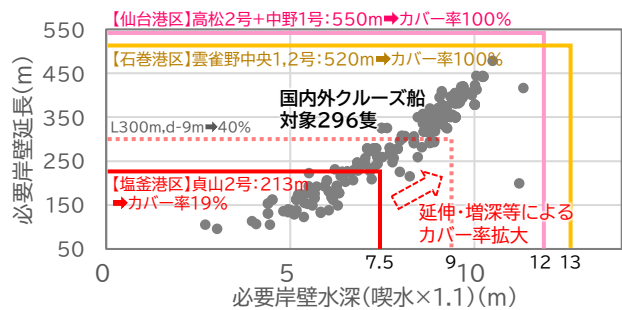
→塩竈市定期観光船(塩竈市)

地域の賑わい形成・目的地づくり

- ・みなとオアシスの活性化、港湾エリアの観光・交流拠点機能の強化
- ・自然環境やマリンレジャー等を生かした地域にも親しまれるウォーターフロントの形成



◆各港区主要岸壁のクルーズ船カバー率



5 長期構想の骨子（案）について

5-1.長期構想の骨子(案)について

- 過年度の長期構想の構成にこだわらず、一般県民にも分りやすく関心を引くような構成を意識
- 長期構想の位置付けや仙台塩釜港のあらまし、現状・課題、統計資料等は「資料編」とし、冒頭に仙台塩釜港の将来像・未来の变革イメージを示した上で、そのための戦略を示す構成とした。

1. 仙台塩釜港の将来像

1.1 概ね30～50年後の仙台塩釜港の姿

- 1) 宮城・東北の経済をけん引する港
- 2) 災害対応に強い強靱な港
- 3) 自然環境と共生する港
- 4) にぎわいと活気にあふれる港

1.2 港湾で取り扱う貨物量の将来見通し

- 1) 仙台塩釜港の物流ネットワーク
- 2) 将来における貨物量の見通し

2. 将来像実現に向けた基本戦略

2.1 ～全体戦略～

2.2 ～個別戦略～

- 戦略1 物流戦略
- 戦略2 防災・維持管理戦略
- 戦略3 環境戦略
- 戦略4 観光・交流戦略

3. 将来像を実現するための主要施策

4. 仙台塩釜港の長期的な空間利用方針

5. 長期構想の実現に向けて

【資料編】

- ・仙台塩釜港の「現状(統計資料中心)」と「課題」
- ・長期構想の位置付け、仙台塩釜港のあらまし、委員名簿など

懇談会で整理済み

第2回(今回)

第3回以降

第3回で示す中間案の範囲

- ・ 懇談会でとりまとめた「将来像・目指すべき方向性」を基に、未来の变革イメージを共有する。
- ・ 未来のイメージには、懇談会の報告書等を学習させた生成AIによるイラスト等を活用。

- ・ 世界各国と繋がる仙台塩釜港の役割や取り扱う貨物を紹介しながら、将来の貨物量見通しを記載。
- ・ 適用する内閣府GDP伸び率の設定や貨物需要予測(マクロ)の詳細は資料編へ掲載する。

- ・ これまで整理した課題・論点を踏まえ、長期構想の基本戦略として、全体戦略(コンセプト)及び4つの視点に対応した個別戦略をとりまとめる。

- ・ 4つの個別戦略における主要施策や港区毎のゾーニング、長期構想の実現に向けたロードマップ、港湾計画での対応方針などを記載する。

- ・ 本編資料とは別に付属資料として整理する。

5-2.長期構想表紙(案)

■仙台塩釜港長期構想とりまとめ 表紙(案)



■表紙イラストを生成AIを活用し、20～30年後の仙台塩釜港の将来をイメージしたものを試作した

■イラストイメージ
 (左上)AIターミナル、次世代高規格ユニット
 ロードターミナル
 (右上)海域環境保全、自然環境との共生
 (左下)カーボンニュートラルポート
 (右下)賑わいあふれるみなと

■タイトル及びテーマは仮
 (テーマはAIより抽出したものの記載)

■①白黒バージョン、②薄青バージョン、
 ③カラーバージョンの3案を作成

■詳細については第3回委員会で提示予定

6 貨物量の将来需要推計 (経済指標に基づくマクロ推計)

6-1 貨物量推計の考え方（実質GDP成長率の適用）

- 取扱貨物量のマクロ推計については、**GDPの伸び率に沿って全体貨物量が増加すると仮定**し、仙台塩釜港の取扱貨物量（トンベース）及びコンテナ取扱量（TEU）について、**内閣府公表のGDP成長見通しを基に推計**を行った。
- なお、推計に先立ち、実質GDPと仙台塩釜港の貨物の過年度推移を基に、相関関係を確認した。

◆ 日本のGDP成長見通しについて

・R7年8月に内閣府公表による「中長期の経済財政に関する試算」では、**実質GDP成長率の将来見通し**について、以下の3ケースが示されている。

①「**高成長実現ケース**」=ハイケース **2034年度：1.8%**

TFP(全要素生産性)上昇率がデフレ状況に入る前の期間の平均程度(1.4%)まで高まる想定。

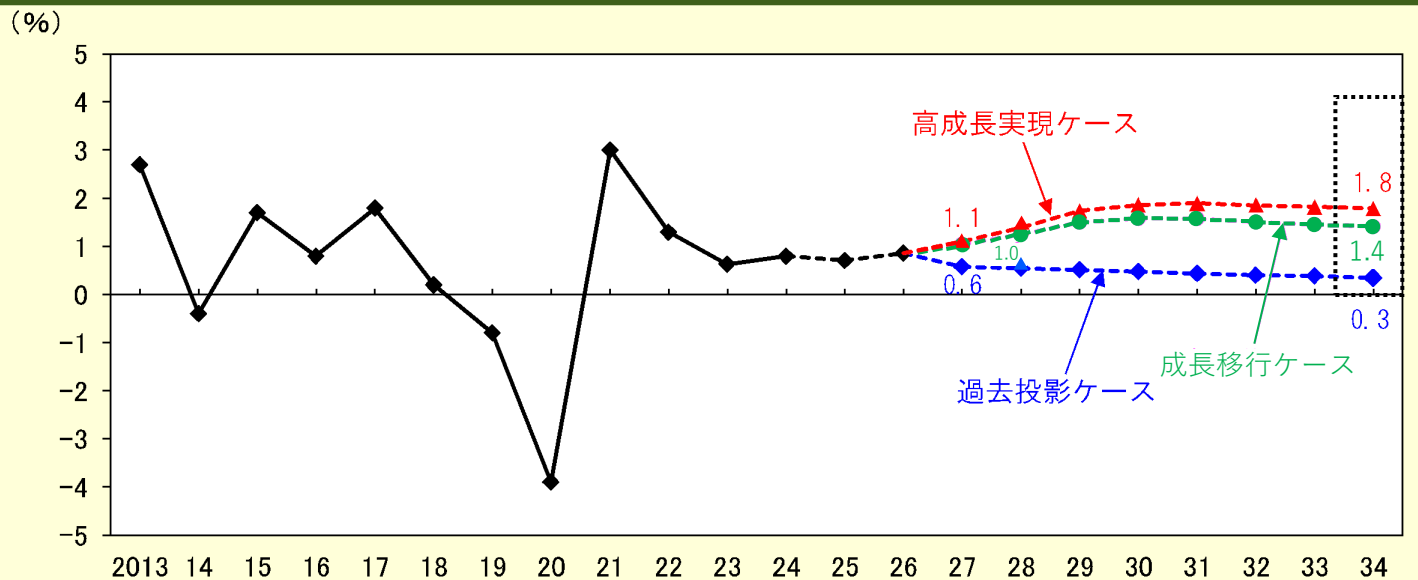
②「**成長移行ケース**」=ミドルケース **2034年度：1.4%**

TFP上昇率が過去40年平均程度(1.1%)まで高まる想定。

③「**過去投影ケース**」=ローケース **2034年度：0.3%**

TFP上昇率が直近の景気循環の平均並み程度(0.6%)で将来にわたって推移する想定。

図2：実質GDP成長率



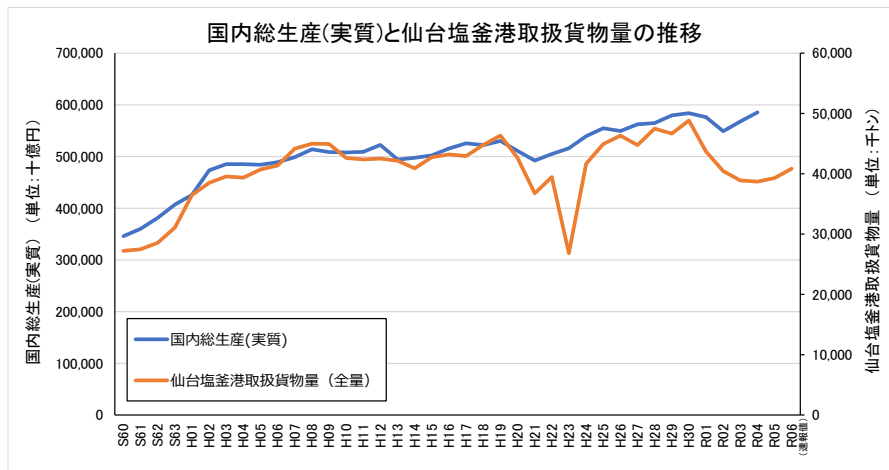
出典：「中長期の経済財政に関する試算（令和7年8月7日 経済財政諮問会議提出）」内閣府を基に一部作成

（年度）

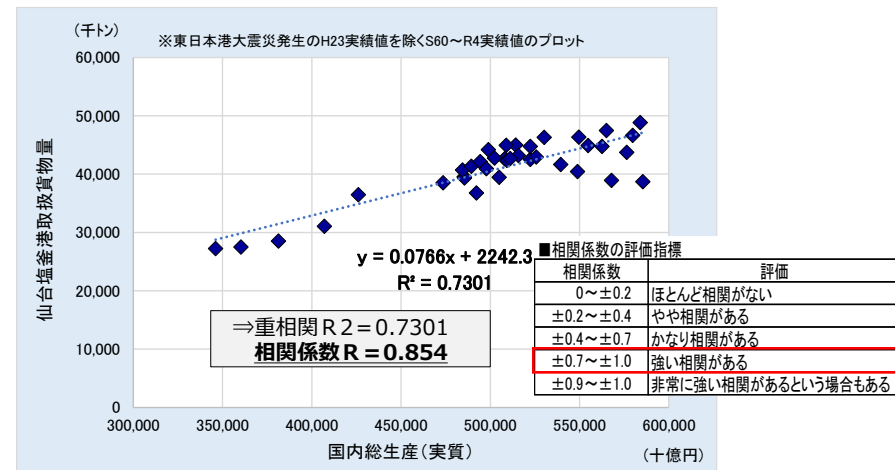
6-2 実質GDPと貨物量推移の相関関係

① 仙台塩釜港取扱貨物量（トン）と国内総生産（実質GDP）との相関関係

・仙台塩釜港取扱貨物量(S60～R6)と国内総生産(実質GDP)(S60～R4)の推移を示す。

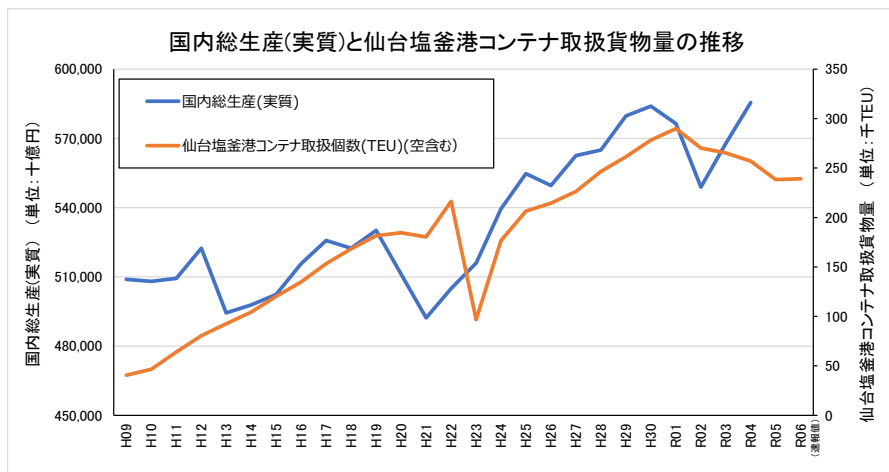


・東日本大震災発生のH23を除く年次において、両者の相関関係を示す。
相関係数は0.854で「強い相関がある」ことが確認される。

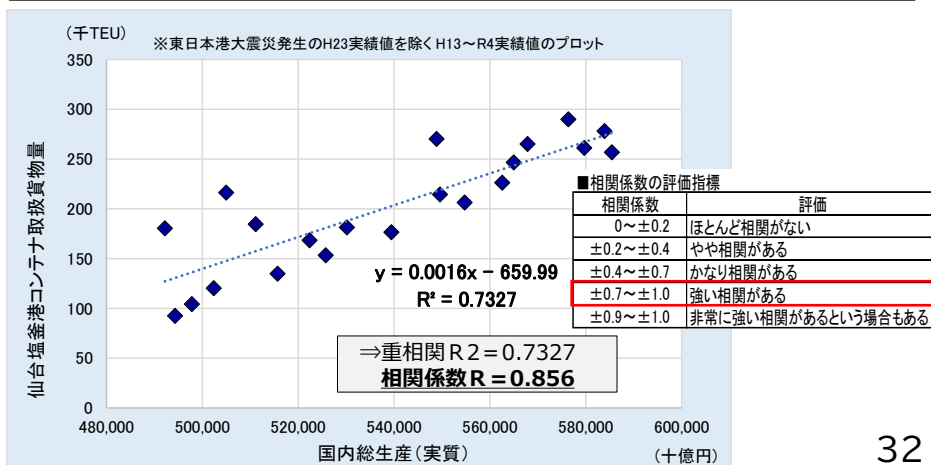


② 仙台塩釜港コンテナ取扱個数(TEU)と国内総生産（実質GDP）との相関関係

・仙台塩釜港コンテナ取扱貨物量(H9～R6)と国内総生産(実質GDP)(H9～R4)の推移を示す。



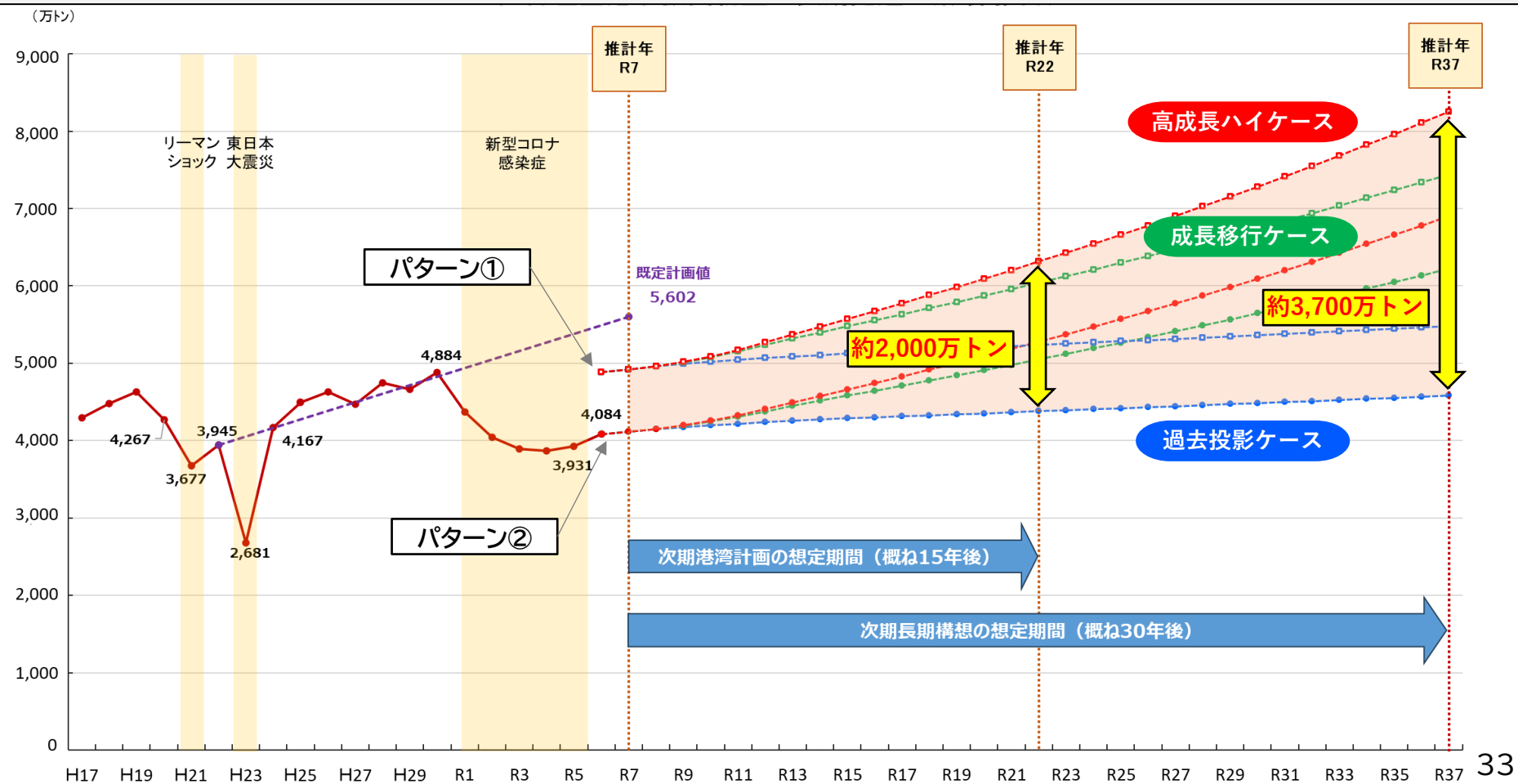
・東日本大震災発生のH23及び、コンテナ航路就航直後で潜在需要が顕在化途上と想定されるH9～H12を除く年次において、両者の相関関係を示す。**相関係数は0.856で「強い相関がある」**ことが確認される。



6-3 社会経済フレーム（全体貨物量見通し）

◆ マクロ的な視点による全体貨物量の見通し（取扱貨物量：トンベース）

- 推計基準年は令和6年とし、初期値については、コロナ禍前の平成30年まで令和7年の既定計画値に沿った推移を示していること、また令和2年以降の新型コロナウイルス感染症拡大に起因したサプライチェーンの変化等による影響を鑑み、「パターン①平成30年実績値を投影した場合」と、「パターン②令和6年実績値を用いる場合」の2ケースで推計した。
- 推計結果として将来の全体貨物量は、パターン②の下限值とパターン①の上限値で令和37年において、約3,700万トンと大きな開きがあり、**初期値の設定が大きく影響**することから、具体的な将来値の設定については、**今後の令和7年実績値の推移や今後の国際経済・景気等の最新動向、政府による経済関連の中長期計画の内容等を見極めながら設定**していく。

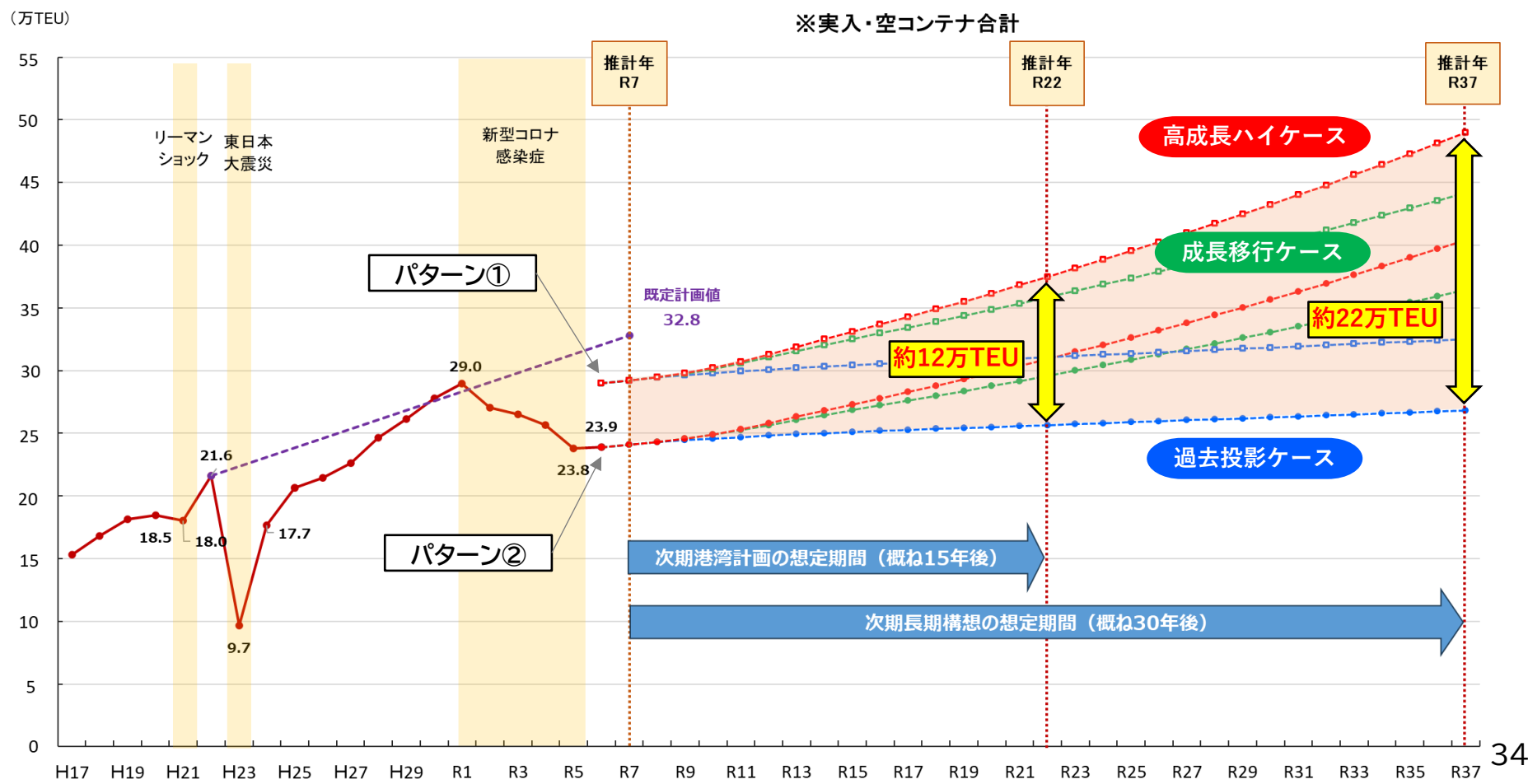


6-4 社会経済フレーム（コンテナ取扱量見通し）

◆ マクロ的な視点によるコンテナ取扱量の見通し（取扱個数：TEUベース）

- 推計条件は、全体貨物量と同様とし、初期値として、「パターン①平成30年実績値を投影した場合」と、「パターン②令和6年実績値を用いる場合」の2ケースで推計した。
- 推計結果として、コンテナ取扱量も同様に、パターン②の下限値とパターン①の上限値で令和37年において、約22万TEUと大きな開きがあり、**初期値の設定が大きく影響**することから、具体的な将来値の設定については、**今後の令和7年実績値の推移や今後の国際経済・景気等の最新動向、政府による経済関連の中長期計画の内容等を見極めながら設定**していく。

仙台塩釜港 外内貿コンテナ貨物取扱量(TEU)の長期見通し(概算推計)



6-5 経済や物流に関する国・県内の動き

◆ 国の動き

■ 日本成長戦略本部(11/4)・日本成長戦略会議(11/10)



※首相官邸HPより

- ・リスクや社会課題に対し、先手を打った官民連携の**戦略的投資を促進**し、**世界共通の課題解決に資する製品、サービス及びインフラを提供することにより、更なる我が国経済の成長を実現**

「危機管理投資・成長投資」による力強い経済成長の実現(17分野)

- ②造船: **生産能力拡大のための大規模投資を大胆に支援**
- ⑭港湾ロジスティクス: **サイバーセキュリティ対策、サイバーポート、ヒトを支援するAIターミナル**

■ 今年策定された、今年度内に策定が見込まれる国の基本計画等(港湾に関連するもの)

- 第7次エネルギー基本計画(R7.2閣議決定)
- 第1次国土強靱化実施中期計画(R7.6閣議決定)
- 2030年度に向けた総合物流施策大綱(予定)
※R7.9 第6回 2030年度に向けた総合物流施策大綱に関する検討会
- 第3次 交通政策基本計画(予定)
※R7.10国土交通省パブリックコメント
- 第5次 観光立国推進基本計画(予定)
※R7.10 交通政策審議会観光分科会(第53回)

◆ 県内の動き

■ 次世代放射光施設「ナノテラス」の活用

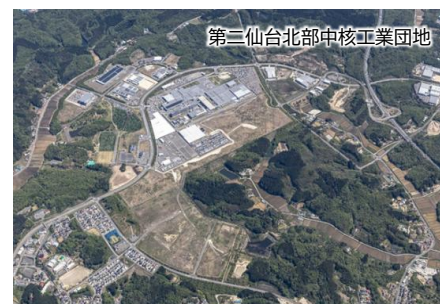


※県新産業振興課HPより

- ・物質の原子や分子レベルの微細構造を観察できる世界最高水準の分析性能を活用し、**様々な産業分野(エネルギー、材料、バイオ、食品など)での革新的な研究開発を促進。**

- ・施設の本格運用(2024年4月開始)に伴い、**10年間で約1兆9千億円という広範な経済効果**が期待されている。

■ 港湾隣接企業及び成長産業の立地にかかる動き



※宮城県大衡村HPより

- ・カーボンニュートラルや物流ニーズなどを踏まえた**事業構造転換や工場の新設などの動き**が進んでいる。

- ・日本製紙石巻工場では、**温室効果ガス排出量大幅削減**に向けた事業が採択された。(令和7年1月)

- ・**バイオマス専焼火力発電所**(住友商事株)や**半導体生産新棟**(東京エレクトロン宮城)の建設なども進展している。

■ 自動車産業生産体制見直し(新聞報道より)

- ・**2030年**をめどに**国内生産体制の再編**が検討されている(東海地方から東北地方への生産シフト)
- ・南海トラフ地震などの**大規模災害発生への備え**や電気自動車(EV)などの**次世代車の増産**に対応するもの。

7 その他（次回開催予定、連絡事項等）

7. 次回開催予定について

- ・次回の開催は、令和8年3月頃の開催予定とする。
- ・今回いただいた意見等を踏まえ、次回は、仙台塩釜港長期構想(中間案)を提示する予定。

